

令和7年度 学校評価総括について

生駒市立 鹿ノ台小学校



令和8年3月20日

学校教育目標 グランドデザイン

学ぶ意欲と豊かな心を持ち、
たくましく生きる子どもを育てる

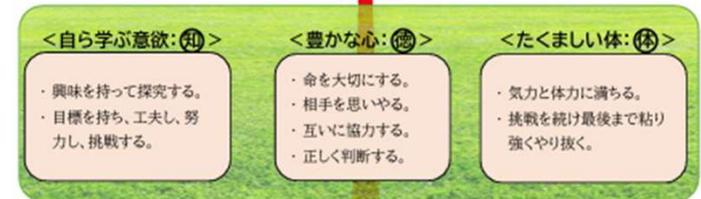
☑教育目標を達成するための土台

〈今年度の重点〉

- 信頼される学校づくり
- 多様性への理解と規範意識、
自己有用感の向上
- 授業改善



令和7年度 生駒市立鹿ノ台小学校の教育
学校教育目標
学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる



指導体制の充実、家庭や地域との連携と協働

今年度の重点

多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上	主体的、協働的な学びと個別最適な学びの推進
① 決まりを守り、人を思いやる言動を育て自己有用感を高める取組の推進 *善悪の判断を育てる道徳教育 *自分らしさへの気づきと自己有用感を育てる取組 *家庭と連携したICTモラル教育 ② 多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重しあう態度の育成 *障害や不登校、外国籍、LGBTQ等の多様性の正しい理解と支援 *心理的安全性を高める取組	③ 児童の協働的な学びと個別最適な学びの一体化を目指す授業づくり *自己調整力を育む授業 *児童同士の意見交流と考えを深める授業 *書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実 ④ 地域と連携した特色ある学びの推進 *地域学校協働本部や市教委等と連携した特色ある取組
保護者、地域から信頼される学校づくり	
⑤ 問題行動への組織的な対応	*外部専門機関や学校運営協議会、地域、保護者との連携
⑥ 「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進	*分かりやすい情報の発信

自己評価と外部アンケートの結果

- 教員自己評価

10月中旬・2月中旬

- 児童アンケート

10月初・2月初め

- 保護者アンケート

1月末



<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000022/22293/2602102.pdf>

成果と課題及び対策について

(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上
に關わる評価項目

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進
に關わる評価項目

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり
に關わる評価項目

3つの観点で分析し評価

年度	年度	年度	年度	年度
<p>1 学校経営目標</p> <p>2 各年度に果たす役割</p>				
<p>3 各年度に果たす役割</p> <p>4 各年度に果たす役割</p> <p>5 各年度に果たす役割</p> <p>6 各年度に果たす役割</p>				
<p>(1) 多様性への理解と自己有用感、 規範意識の向上</p>				
<p>(2) 主体的・対話的で深い学びと 個別最適な学びの推進</p>				
<p>(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり</p>				

(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

①決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

質問番号	児童アンケート「できた/概ねできた」の割合	昨	前	後
1	決まりを守る	80	86	90
2	まじめにそうじをしている	86	87	90
3	あいさつをすすんでした	91	91	90
4	思いやりのある言動をした	88	84	87
6	以前の自分よりがんばっている	92	92	92
9	善悪の判断について道徳でしっかり考えた	91	90	91
10	考えを人にうまく伝えられた	79	76	79
12	授業の話合いで考えが深まった	90	88	89
19	学校は楽しい	89	90	90

(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

①決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

【成果と課題】

◎廊下歩行や決まりについての意識は高くなってきた。☞教員の指導 児童会の取組

○児童会の呼びかけや担任の取組でルールについての話し合い

○服装の決まりについて児童や保護者の声を聞きながら柔軟に対応

▲廊下歩行等、教員がいない場面で課題

▲児童会だけでなく、もっと児童からの呼びかけや取組があるといい

【来年度に向けて】

→「協力してよりよい学校・学級をつくろう…」と思う児童が9割

⇒児童主体の取組を活発化(委員会発表・イベント)

→上からの指導ではなく子ども達に考えさせ共に考える姿勢の堅持

→制服について、考えていく機会を増やす

(1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

① 決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

- 廊下歩行について、教員の指導と児童の取組により、意識している児童を目にすることが多く、全体的に、よく取り組んでいると思う。
- 教員がいない場面では、できていない姿を見かけるので、繰り返し、継続した指導を続けてほしい。
- 決まりを守る意識を育てるには、「ともに考える姿勢」が大切。児童に考えさせ、見守りながら、対応して行ってほしい。

(1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

① 決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

【成果と課題】

◎校門や校内で挨拶をする児童は増えてきた。

▲相手に伝わるような意識の弱さ 家庭や地域で挨拶ができないとの声もある(一部)

◎全校朝会や学級指導をとおして、「言葉」や「行動」についての指導を継続中

▲「優しい言動ができていない」と感じている児童が13% 言動によるトラブルの多さ

◎人権教育部、研修部の取組(心理的安全性を高める取組)

【来年度に向けて】

→児童の委員会活動とリンクした取組

(集会・発表の場づくり、のびのび班活動の取組の推進)

→自尊感情や心理的安全性を高める取組の継続と充実

人権教育、研修、特活、生徒指導の各部が連携した取組の継続

(1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

① 決まりを守る気持ちを育てる

あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

- 地域でも、自発的にあいさつをする児童が増えてきた。「おかえり」と声をかけると「ただいま」と返したり、自分からお礼を言ってくれたりする児童が多い。
- 学校で、あいさつについて指導していることを初めて知ったが、とても意義のあることだ。地域、家庭、学校で連携してあいさつの指導を継続して取り組んでいくのがよい。

(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

心理的安全性をについての取組

【成果と課題】

教員アンケート「多様性の正しい理解のための授業や取組、研修ができた」 83%

- ◎LGBTQ出前授業(3年と6年)/各学年学級での取組
- ◎国際理解教育(1年、2年)
- ◎通級指導の啓発授業(8割の学級で実施)
- ◎特別支援学級への理解を進める啓発授業(交流学級を対象)

【来年度に向けて】

- 通級指導については、担当教員の時間割がタイトであるが、全学年を対象に、通級指導の啓発授業を計画的に取り組む
- LGBTQや発達障害などの様々な特性を持つ児童についての職員研修を行う
特別支援学級の様子を交流学級児童に知らせる取組を進める

(1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

心理的安全性をについての取組

児童アンケート

⑭授業中、まちがいを気にせず安心して話せる

67.7→73.3

26.3

⑮授業中、自分の考えをみんなが受け止めてくれると感じる

81.5→84.6

15.4

朝の活動 サークルタイムやペアトーク 総合の時間 自分の好きな物紹介



朝の隣の席・後ろの席の人とのお話
タイムの取り組みがとても有難い

いじめ防止は親の一番の関心ごと
理論に沿ってクラスメイトのコミュ
ニケーションを取らせることは素晴
らしい (保護者アンケートの記述より)



(1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

心理的安全性をについての取組

【成果と課題】

◎奈良女子大附小、市教委と連携し教員研修や自主研修を重ねた。

◎安心して話ができる、受け止めてくれると感じる児童が増えた。

▲様々な背景があるとはいえ、学校が楽しくない(1割)、受け止めてくれていると感じない(15%)、がんばっていると感じていない(9%)の割合は無視できない。

【来年度に向けて】

→引き続き、心理的安全性を高める取組と研修を継続したい。

→自己肯定感、自己有用感は、学習や活動、行事への主体的な関わり、役割をと
おして育まれる。より多くの児童が主体的に関わり、役割を担えるよう取り組む。

(1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解 心理的安全性をについての取組

- 児童が、少しでも安心できるような環境を整えていく取組は大切である。
- 特に不登校や登校渋りのある児童にとっては、教員の関わり方や態度、雰囲気や伝わり方や感じ方が変わってくる。児童の心理的安全性を高めるための職員研修を充実させてほしい。
- 一方で、子どもたちに関わる教員、親などの大人に余裕がなくなっているのを感じる。学校においては、教員の確保、定数を増やす制度の拡充が望まれる。

学年	年度	学校評価結果	学校名	実施年度/担当	担当	担当
<p>I 学校概要</p> <p>II 本年度に向けた課題</p> <p>III 本年度の進捗状況</p> <p>IV 本年度に向けた課題</p>						
1	1					
2	2					
3	3					
4	4					
5	5					
6	6					

(2)主体的・対話的で深い学びと
個別最適な学びの推進

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ **自己調整力を育む授業** 児童同士の意見交流と考えを深める授業
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

【自己調整力を育む】

①⑥授業後、自分の学びをふりかえる

児童 79→82

18

①⑦わからないときは自分で調べたり人にきいたりしている

児童 87→89

10

大切にしたい学びの姿

ふりかえり

2年生算数。図の四角形が長方形といえるか判断する学習の終盤、学習の「ふりかえり」として、学習で分かったことや気づいたことを、自分の言葉でノートに書いていました。自らの学びを振り返ることを大切にして取り組んでいます。

平和学習振り返りの様子

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 **児童同士の意見交流と考えを深める授業**
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

【意見交流の機会】

⑩意見交流を取り入れた授業
を6割以上の時間で設定

教員 78→63 34

⑪授業中、意見交流しながら
課題解決する機会があった

児童 78→63 10

【考えの深まり】

⑨学びが深まったと感じる児
童を増やす

教員 57→54 46

⑫自己探求と意見交流によっ
て考えが深まった

児童 78→63 10

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 児童同士の意見交流と考えを深める授業
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

【成果と課題】

◎自己調整力を育む取組＝めあてと振り返りで**明確化**。**習慣化**(部分的)

▲学び合いの**機会や考えの深まりが減**☞端末の更新による戸惑い？

◎研修や実践交流により**能力を高めることができた**と感じる**教員9割**

→自主研修会による**教員どうしの対話の機会を増やした意義大きい**

【来年度に向けて】

→引き続き、主体的、協働的な学びと個別最適な学びを推進する研修や取組を行う。

→奈良女子大附小との研修の連携と交流を深める。

→校内推進役となっている教員の学びを広げ、教員間の対話と交流を重視して取り組む

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 児童同士の意見交流と考えを深める授業
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

【伝える】

⑩考えを伝えることができた
と感じる児童を5割以上にする

教員 70→88

13

⑩考えを人に伝えることがう
まくできた

児童 78→79(昨79)

21

学び合い

5年生の算数。3つの異分母分数の加減を、学んだことを使ってどう計算するとやりやすいのか。計算して答えを出すだけでなく、よりまちがいの少ないやり方はどれか、どの方法が自分にあるのか、考えながら問題に取り組みます。その後、席が近くの人と、自分のやりやすいと思った方法を伝えあい、やってみて気づいたことを意見交流しました。



伝える



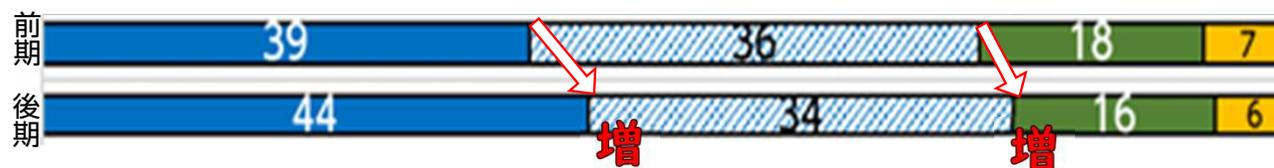
(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 児童同士の意見交流と考えを深める授業
 書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

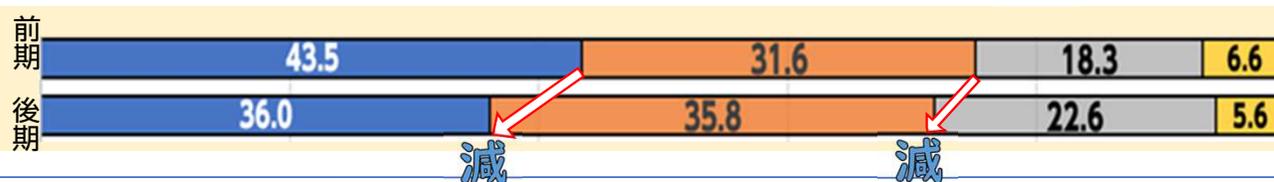
【伝えるのが好き】

⑨表現、説明が好きと答える
 児童を6割以上にする

⑨自分の考えを書いたり説明
 したりするのが好きだ



【昨年度 伝えるのが好き】

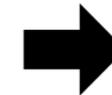


(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 児童同士の意見交流と考えを深める授業
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

【成果と課題】

◎**発表や交流(ミニも含む)の機会を増**
対話や書くことで学びの振り返り



考えの表出に自信
をもつ児童が増えた

▲児童や学級での取組に濃淡がある

【来年度に向けて】

→書く、説明する、伝える、意見交流、対話を授業の基本に位置づけ、
発信力、表現力、自己調整力を高める

→安心して考えや思いを述べられる学級づくり

(心理的安全性を高める)

(2)主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの推進

- ③ 自己調整力を育む授業 児童同士の意見交流と考えを深める授業
書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実

- 自分の学びに対する目標をもち、振り返りを行う取組は、大切である。引き続き取り組んでほしい。
- 他校と連携した取組は、たいへん有意義である。
- 自分の気持ちをうまく言葉にして伝えることができず、トラブルになることもある。できるだけきちんと自分の感情を相手に伝えようとする力をつけていきたいものだ。

年度 年度 学校評価結果表		学校名		実施年度/評価年度		評価項目		評価 数値	
I 学校概要情報									
II 本年度に実施した課題			III 本年度の重点課題			IV 本年度に実施した課題			
<p>本年度の1つ重要な課題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 本校の特色である「主体的・協力的な学習」を推進し、学力向上を図ること。 2. 地域社会との連携を深め、社会性を養うこと。 3. 生徒の個性を伸ばし、自己実現の力を育てること。 			<p>本年度の重点課題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 主体的・協力的な学習の推進。 2. 地域社会との連携の強化。 3. 生徒の個性を伸ばすための学習環境の整備。 			<p>本年度に実施した課題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 主体的・協力的な学習の推進。 2. 地域社会との連携の強化。 3. 生徒の個性を伸ばすための学習環境の整備。 			
評価項目	評価内容	達成状況		達成状況		達成状況		達成状況	
		達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
1	主体的・協力的な学習の推進	85%	80%	85%	80%	85%	80%	85%	80%
2	地域社会との連携の強化	75%	70%	75%	70%	75%	70%	75%	70%
3	生徒の個性を伸ばすための学習環境の整備	90%	85%	90%	85%	90%	85%	90%	85%
4	学力向上の推進	80%	75%	80%	75%	80%	75%	80%	75%
5	社会性の養育	70%	65%	70%	65%	70%	65%	70%	65%
6	自己実現の力の育成	85%	80%	85%	80%	85%	80%	85%	80%

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

⑤ 児童の問題行動への対応

【取組】

- ◎児童連絡会(月1回)の定例開催、
情報共有
- ◎個別事象への対応
 - ・ケース会議での対応の協議と実行
 - ・市教委、スーパーバイザー、SC等専門家との連携
- ◎不登校支援として、
校内サポートルーム設置に向けた議論
と共通理解

【来年度に向けて】

- 学級の状況を担任ひとりが抱え込まず、学年、職員全体が把握しやすい環境づくり
- 問題行動にいち早く組織的に対応する体制の再構築

- 校内サポートルームの設置
(担当支援員、フリーで対応できる教員の確保が課題)

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

- ⑥ 学校運営協議会、地域学校協働本部との連携と協働
デジタルリテラシー、情報モラル教育について

【取組】

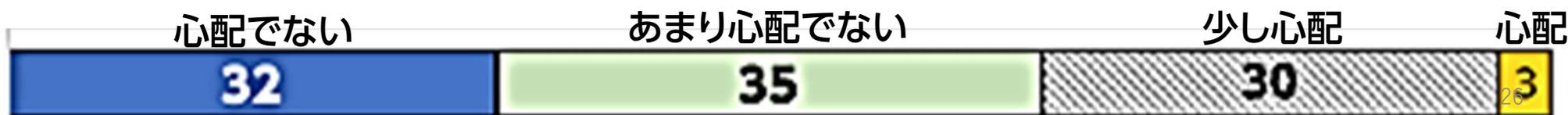
◎情報モラル教育(企業による出前授業) 1・3・5年…10月6日 docomo
6年 …2月9日 KDDI

◎6年生で生成AIの利用についての授業

保護者アンケート Q9 学校の情報モラルやデジタルリテラシーについての取組について



Q10 お子さんの情報モラルについて



(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

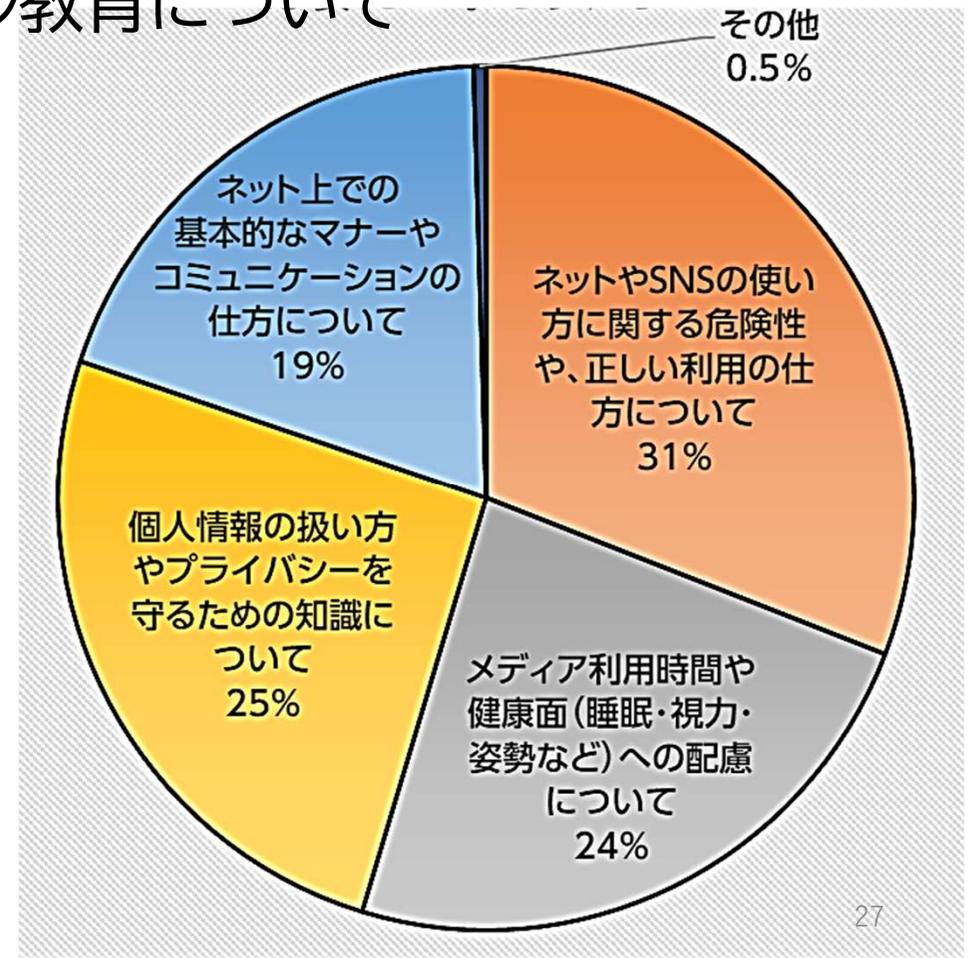
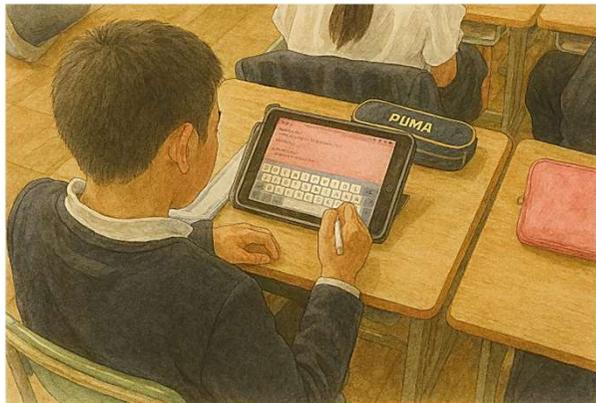
⑥ 学校運営協議会、地域学校協働本部との連携と協働 デジタルリテラシー、情報モラル教育について

Q11

お子さんが

身につけるべき情報モラルについて、

今後特に必要だと感じられること



(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

⑥ 学校運営協議会、地域学校協働本部との連携と協働 デジタルリテラシー、情報モラル教育について

【成果と課題】

- ◎保護者の情報リテラシー教育への関心は高い
- ◎自由参観ができる方式をとって出前授業を実施
- ▲自由参観では参加者数が少ない＝参加しづらい

【来年度に向けて】

→全学年か偶数学年か、一部の学年なのかは決められないが、年に一度、情報モラルに関する参観授業を設定し、ともに考えていく機会を設定することを検討する。

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

⑥ 学校運営協議会、地域学校協働本部との連携と協働 デジタルリテラシー、情報モラル教育について

- 情報リテラシーの取組は今後ますます大切になってくる。保護者と一緒に考える機会を設けてもらいたい。
- 地域の人材や地域の繋がりで、学校に様々な出前講座を紹介することができる。児童や学校の実情に合わせてコーディネートするので、声をかけてほしい。
- 不登校や登校渋りの児童のためにも、校内サポートルームなどの選択肢が増えることは喜ばしいことだ。人の確保など設置に向けた取組をおねがいしたい。

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

⑥「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進

学校の方針や授業、学校生活の様子などを分かりやすく発信

【保護者アンケート】

⑰学校は、寄り添い連携しようとしている



⑱学校の様子は分かりやすく伝わっている



【取組の成果と課題】

◎「鹿小だより」月2回 X投稿平日1回

◎X投稿内容を昇降口に掲示

◎「鹿小だより+」をすぐーる配信済み

▲1割は伝わっていないと回答。

▲Xは保護者に浸透していない。

▲画像生成AIの進歩による問題と
業務の負担

【来年度に向けて】

→「鹿小だより」は月2回か1回発行し、
学校の取組の意義や方針を発信

→わかりやすくかんたんに様子を伝える
手段として、「鹿小だより+」を多めに
すぐーる配信

→個人情報の保護に関する保護者との合意
を図る

(3) 保護者、地域から信頼される学校づくり

⑥「鹿らしさ」についての共有と取組の推進

学校の方針や授業、学校生活の様子などを分かりやすく発信

□自治会の回覧で学校だよりを読んでいると、学校の様子がよく伝わってくる。

□デジタルでの配信だけになると、地域が高齢化する中、学校の情報に触れる機会が減ってしまうことになり、残念である。無理のない範囲で、広報活動に努めてもらいたい。